

# 説得力ある意見文を書こう

## 一定時制生徒の実態に応じた意見文指導一

- 1 科目名 国語総合
- 2 単元名 説得力ある意見文を書こう
- 3 教材名 是非型意見文（賛成・反対など、意見が二つに分かれるもの）
- 4 単元の内容

単元の目標  
と評価規準  
・評価方法

### ①単元の目標

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書こうとする。（関心・意欲・態度）
- イ 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。（書く能力）
- ウ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法などを理解する。（知識・理解）

### ②単元の目標設定の理由

#### （1）「書く力」の不足

本校の生徒は、客観的に判断すると、学力が低いと言わざるをえないのが実態である。とりわけ、「書く力」が不足している。「書くことが思いつかない」、「支離滅裂な文を書く」、「漢字が分からない」、「書き出しで困る」といったことが、各教科の授業やLHRの時間などで見られる。また、精神年齢が幼かったり、一般常識に疎かったりするため、幼稚な記述も少なくない。

そこで、「高校生らしい作文が書けるようになってほしい」という思いから、この目標を設定した。ただ、作文に抵抗を示す生徒や、小中学校に登校できていなかった生徒も多い。したがって、原稿用紙の使い方や発想法など、既習事項も授業時間内で扱った。そして、まずは「書く楽しみを味わうこと」と「一文を短く書くこと」を重視し、段階的に意見文の指導に移った。

最終的に生徒に付けたい力は、「具体的な例示（会話表現や数値などを用いる）をしながら根拠を述べられる」というものである。作文執筆の6段階（①主題の決定 ②集材 ③選材 ④構成 ⑤記述 ⑥推敲）の中で、集材に該当する。

### ③中心となる学習活動 「意見文を書く」

#### （1）なぜ意見文か

「自分の意見を主張すること」が様々な場面で求められていると考えるからである。情報化・国際化が進む今日、その影響で価値観が多様化していると言われていて、そのような社会においては、「察してもらったり、周りに合わせたりする」だけでは不十分であり、自己主張することも必要と言えよう。

さらに、そのような社会になっているのにもかかわらず、本校の生徒は、自分の考えを効果的に相手に伝えることが苦手である。したがって、生徒たちが自分の考えを相手に伝え、社会生活を円滑に送れるようになることを期待して、この学習活動を設定した。本校の実態に合わせて、以下のような力を付けたい。

- （ア）一文を短めにして書ける。（一文一意で書く）
- （イ）読み手にとって読みやすい字で書ける。
- （ウ）頭括型で意見文が書ける。
- （エ）自分の意見を支える理由を挙げることができる。
- （オ）理由が分かりやすくなるよう、具体例を挙げることができる。

#### （2）意見文の種類

より効果的な指導をするため、意見文を分析した。意見文は、題材によって、以下の4種類に分けることができる。

(ア) 問題解決型意見文 (例: 雇用問題を解決するために、できることは何か)

(イ) 是非型意見文 (例: 選択的夫婦別姓に賛成か反対か)

(ウ) 事実認定型意見文 (例: 今期の生徒会執行部の活動について)

(エ) 思索型意見文 (例: 働く、とはどのようなことか)

本単元では、4種類の意見文のうち、「是非型意見文」を扱うことにする。その理由は、以下の3点である。

(ア) 賛成・反対の2つに分かれるため、自分と異なる立場の者が存在することになる。それが、書く意欲や相手意識の向上につながる。

(イ) 「優先席は必要である」など、社会的価値のある題材を設定しやすい。

(ウ) 構成が他の種類の意見文に比べ、ある程度パターン化でき、指導しやすい。

### (3) 意見文の定義

書籍に書かれているものと、それに基づく筆者の考えを別紙①「意見文の分析と定義」にまとめた。また、授業において意見文の定義を知らせるときは、別紙①の「筆者の考え」を「是非型」用に修正し、生徒向けに次のように整理して伝えた。

今回、学習する意見文とは、

(書く対象) 対立する考えや制度などについて、

(相手) 反対意見をもつ者に対し、

(状況) 自分の立場をはっきりさせて、

(構成) 意見と理由をつなげながら、

(目的) 相手に納得してもらったり、考えを変えてもらったりする文章のことである。

### (4) 定時制の生徒の実態を踏まえて

書く能力において、課題のある生徒が多い。したがって、次の4点を配慮した。

1. 学級が少人数であることを生かしカルテを用いて継続的な指導を行った。(詳細は後述)
2. 時間をかけてスモールステップで指導を行った。
3. 漢字について、適宜、教師が教えた(辞書を引くのに時間がかかる、又は、引けない)
4. その時間の学習目標についてのみ、評価した(添削する箇所は多くあったが、生徒のやる気を削がないよう必要以上に指摘しなかった)

### ④言語活動の工夫

作文に抵抗を示す生徒が多かった。「書けない」⇒「つまらない」⇒「もっと書けなくなる」という悪循環を断ち切るため、以下のような指導上の工夫を心掛けた。

#### (1) 模範作文(学習の到達点)の提示

「最終的に、このような意見文が書けるようになりましょう。工夫してあるところは、○○ですよ。」というような到達点を表す意見文の手本を教師側が書き、提示する。そうすることで、生徒たちが「こういう作文が書ければいいのか」とイメージできるようにした。ただ、題材については、生徒たちが書くものとは別にした。(単純な模倣とならないように)

また、「書き出し」について困惑する生徒が非常に多かった。そのような生徒に対しても、模範作文を見せることは効果的であった。

#### (2) 個人カルテの作成

個人カルテを作成することで、継続的・効果的な指導ができるようにした。また、カルテは印刷した物を、作文と共に生徒に配布した。カルテは、以下の点を工夫した。

1. 数値での評価と文での評価も併用した。
2. 表計算ソフトExcelの使用により、物理的な負担を軽減した。

3. 自由記述の項目を作り、良い点も課題点も記録可能にした。さらに、「内容・態度」と「形式」の2項目に分け、より細かく評価した。
4. 自由記述においては、書き上がった作文だけでなく、取り組む姿勢についても評価した
5. 生徒の意欲を高めるため、個人カルテ以外にも、手書きのコメントを作文に書き込んだ。

(3) 個別支援用の机列表の作成

個人カルテや授業中の様子を基に、個別支援用の机列表を作成した。適切な支援を素早く行うためである。作文は、個々の「困りどころ」の違いが、つかみやすい。その困りどころと、それへの手立てを表にまとめておき（たとえば、「書き出しに苦勞する」➡「手本を用意しておく」、「取り掛かりは早い、課題を意識できていないことが多い」➡「ある程度時間がたったら確認しに行く」など）、机間指導中に活用した。

(4) 題材について

「選択的夫婦別姓の是非」、「年上の後輩に、敬語を使うべきか」と言った、社会的に価値あるものを題材として設定した。生徒たちが社会的なことを考える機会としたかったためである。また、生徒たちが、できるだけ「書いてみたい（自分の思いを発信したい）」と思えるような題材を研究した。

(5) 導入の工夫

生徒たちが「書いてみたい」と思えるよう、導入において紙芝居を使った。たとえば、「年上の後輩に、敬語を使うべきか」において『①ある飲食店で勤務している ②経験を積んで、店長から研修生の指導を任される ③しかし、あらわれた研修生は、自分より20歳も年上だった』という状況説明を紙芝居で行った。

(6) 作文の「処理」の工夫

生徒たちが書いた作文は、「作品」と位置づけ、一人ひとりの文集にした。多くの人は、形ある作品ができると嬉しくなるものだと思う。文集ができあがっていくことで、生徒たちの意欲も高まっていくことを期待した。

(7) 指導事項の明確化

基本的に、1時間1事項を原則とした。作文執筆の6段階の過程を、1時間に1つずつ取り上げて指導した。後述の単元指導計画の「書く時間の目標」の項では、その時間に取り上げる過程を記した。

(8) 短作文

1時間の授業で書く作文の量は、多くても400字とした。本校の生徒は、書くことに対して抵抗をもつ生徒が多い。したがって、その負担を軽くした。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①題材について、自分の考えをもち意見文を書こうとしている。	観察	・「書くこと」に抵抗を示すことが多いので、教師と生徒の対話から考えをもたせる。
書く能力	①結論→根拠(1)→具体例(1)→根拠(2)→具体例(2)という構成で意見文を書くことができる。 ②例を挙げる際は、以下の事項を使って具体化する。 1. 5W1H 2. 会話表現 3. 体験談 4. 数字(数値)	書き上がった作文	・教師が作成した模範文を示し、到達点のイメージをもたせる。 ・どこでつまづいているのかを分析し、それに応じた支援をする。(主題の決定、集材、選材、構成、記述、推敲に応じて支援する)

		5. 普通名詞 なお、上記の事項は、読み手にとって身近であるものが望ましい。		
	知識・理解	①説得力のある意見文を書くためには、どのような論理的な構成で書けばいいかを理解している。	ワークシート 確認テスト	・ワークシートを見るように助言する。
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <p>① 是非型意見文における一種の「構成」を身に付けさせた。さらに、例示を具体的にする方法、つまり「集材」の能力を伸ばし、論理的な意見文が書けるようになった。</p> <p>② 定時制の生徒の実態に合わせ、スモールステップでの指導の在り方を追求した。</p> <p>③ 少人数であるという定時制の利点を生かし、個人カルテを基にした継続的な指導を実践した。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>① 成果の①に対応するが、是非型意見文の「主題の決定」、「選材」、「記述」、「推敲」についての指導が不十分であった。</p> <p>② 理由の妥当性・信頼性についての指導が不十分であった。</p> <p>③ 生徒が「書きたい、意見を表したい」という題材であるならば、意欲が高まる。しかし、現実的には、そのような題材は、過半数以下である。</p> <p>④ 是非型以外の意見文指導（特に、実際求められることが多いであろう問題解決型意見文）に、どうつなげるか。</p> <p>⑤ 書くことの「必然性」の設定に、検討の余地が大いにある。理想は、「書く目的」、「書く相手」が明確になっている状況である。しかし、そのような設定をすることができなかった。</p>			
アドバイス 及び 留意点	<p>作文を書く際、生徒は様々なところで、つまづいてしまう（書くことがない、書き方が分からない、漢字が分からない、書き方があっているか分からない）。このつまづきを、いかに取り除くかが、肝要だと思われる。以下の方法が効果的であった。</p> <p>① 「つまづきの予想」をするとき、自分も同じ題材で作文を書く。自分が書くことで、分かることがある。</p> <p>② 机列表を毎時間準備し、記録していく。すると、「この生徒は、書き出しで困ることが多い」などの傾向が分かってくる。</p> <p>③ 「分からない？」と聞くと、「大丈夫」と答える生徒が非常に多い。「困っているんじゃない？」「何か、スッキリしないの？」という表現で、生徒が質問しやすくする。</p>			
小中学校との系統性	<p>②小学校・高学年・書くこと ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</p> <p>③中学校・第2学年・書くこと ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること</p>			

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○是非型意見文を書く、自分の能力を知る。  (第1回作文)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒用の、単元の計画を読み、本単元の見通しをもつ。</li> <li>題材「小学校に留年制度を導入するという意見に賛成か反対か」について、是非型意見文を書く。</li> </ul> <p>※本時は、教師側が生徒たちの実態をつかむことが狙いであり、あえて何も指導しないで書かせるという意図を伝える。</p>	単元の見通しをもち作文を書こうとしている。【関】 ↓ 観察（机間指導）	

		<p>※本時の意図を話し、次回からはきちんと書き方を教えることを伝える。</p> <p>※本時の作文は、成績に含めないということも伝える。</p>		
2	<p>○文の長さは、短い方が分かりやすいことを理解する。【記述】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの作文をすることで、一文が短い方が、分かりやすいことを理解する。</li> <li>・一文が長い文章を読み、一文が短くなるように訂正する。【B・イ】</li> </ul> <p>*文は短ければよいというわけではないが、ここでは、訓練として、機械的に短くさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な位置で文を区切り、一文を短くしている。【書】</li> </ul> <p>↓ プリント提出</p>	<p>どこを訂正するか分からない生徒には、「どこにマル(句点)を付けることができるか」と、問いかける。</p>
3	<p>○一文が短い作文を書く。【記述】</p> <p>(第2回作文)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の題材「ヒラメキ発明コンクール」についての紙芝居を見て、関心をもつ。</li> <li>・手本の作文を読み、到達点を理解する。</li> <li>・一文が短い作文を書く。【B・イ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての文が一文一意で書けている【書】</li> </ul> <p>↓ 生徒の作文</p>	<p>【書くことがない】⇒事前に用意したテーマを提示したり、質問によって生徒が関心のあつたものを聞き出し、アイデアを引き出す。</p> <p>【一文を短くできない】⇒「この文にマルを付けることはできないかな」と問いかける。</p>
4	<p>○理由を3つ述べる頭括型の意見文を書く。【構成】</p> <p>(第3回作文)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの作文を比較することで、意見文には理由が不可欠であることを確認する。</li> <li>・本時の到達点となる作文の手本を読む。</li> <li>・「修学旅行と体育祭は、どちらが好きか」という作文について、意見文を書く。【B・イ】</li> </ul> <p>*本時の題材について、「正確には意見文ではないこと」「ただ、構成を学ぶよい題材なので扱うこと」の2点を説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭括型で書いている。【書】</li> <li>・理由を3つ書いている。【書】</li> </ul> <p>↓ 生徒の作文</p>	<p>【頭括型で書いていない、理由を3つ書いていない】⇒自己評価表を使って点検させる。</p> <p>【理由が思いつかない】⇒「どちらが好きか」だけでなく「どちらが嫌いか」という逆の考え方をさせる。</p>
5	<p>○理由を考える方法を理解し、実践する。【集材】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書くときに、困難だと思うことについて考える。</li> <li>・「書くことがない」ときに困ることを確認し、その解決策として「マッピング」というものがあることを理解する。</li> <li>・本時の題材「本校の給食制度に、賛成か反対か」についての紙芝居を見て、関心をもつ。</li> <li>・題材について、マッピングを使いながら意見文を書く。【B・ア】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッピングを使って発想を広げている。【書】</li> </ul> <p>↓ 学習プリント</p>	<p>【マッピングが使えない】⇒口頭で表現させたり、教師側が難点か例示したりする。味、材料、時間、経済性など、「観点」をいくつか示す。</p>
6	<p>○理由を具体化する方法(普通名詞を使う)を理解し、実践する。【集材】</p> <p>(第4回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由を具体的に書く必要性について理解する。</li> <li>・具体化する方法として、普通名詞を使うものがあることを理解する。</li> <li>・本時の題材「コンビニは24時間営業を継続すべき」についての紙芝居を見て、関心をもつ。</li> <li>・題材について、学んだことを生かしながら意見文を書く。【B・ア】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通名詞を使って具体例を書いている。【書】</li> </ul> <p>↓ 生徒の作文</p>	<p>【「深夜にいろいろなものが買えて便利だ」などと書いてしまう】⇒「具体的には、どのような商品が買えるのか」と質問する。</p>

	作文)			
7	○理由を具体化する 方法(体験談)を理解し、実践する。【集材】  (第5回作文)	・理由を具体的に書く必要性について再確認する。 ・具体化する方法として、体験談を使うものがあることを理解する。 ・本時の題材「大垣工業高等学校定時制に制服は必要である」についての紙芝居を見て、関心をもつ。  ・題材について、学んだことを生かしながら意見文を書く。【B・ア】	・体験談を用いて具体例を書いている【書】 ↓ 生徒の作文	【体験談を想起できない】 →具体的な観点を与える。着替える時、アルバイトに行く時、機能性の面など。  【書くことがない・立場が決まらない】 →制服についても私服についても、マッピングをさせる。
8 (本時)	○理由を具体化する 方法(会話表現)を理解し、実践する。  (第6回作文)	・理由を具体的に書く必要性について再確認する。 ・具体化する方法として、会話表現を使うものがあることを理解する。 ・本時の題材「職場で、年上の後輩ができた。敬語を使うべきである」についての紙芝居を見て、関心をもつ。 ・題材について、学んだことを生かしながら意見文を書く。【B・ア】  ※下記の設定を伝え、生徒が考えやすいようにする。 ①あなたは、ファミリーレストランに就職して5年目である。新人の教育係も、任されている。 ②年上の後輩(Aさん)は、「40歳:同性:飲食店での勤務経験なし:元営業マン」である。 ③あなたは、店長から、Aさんに仕事を教えるよう頼まれた。	・会話表現を使って具体例を書いている。【書】 ↓ 生徒の作文	【会話表現を想像することができない】 →「具体的には、どのような商品が買えるのか」と質問する。

6 第 8 時の学習指導案

本時の位置	8時間目(全 8 時間)		
本時の学習目標	ア 題材「職場で、年上の後輩ができた。敬語を使うべきである」について、具体的な会話表現を用いながら、意見文を書くことができる。(書く能力)  イ 敬語について関心をもち、進んで意見文を書こうとしている。(関心・意欲・態度)		
事前の準備	①導入時に使う紙芝居 ②到達点を具体化した手本の作文 ③構成メモ用学習プリント ④原稿用紙(評価の観点を載せたもの)		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 7分	□本時の課題と到達点について知る。	①「理由を具体的に書く必要性」について理解する。  ②2つの例文を比べ、会話表現を使うことで具体化する方法を理解する。  ③教師が書いた手本を見て、到達点を確認する。	・生徒が考えやすいように、例文を準備しておく。  (ア)落ち込んでいる人に、否定的なことを言っはいけない。否定的なことを言われたら、ますます落ち込んでしまうからだ。  (イ)落ち込んでいる人に、否定的なことを言っはいけない。「だから、君はダメなんだよ」と言われ

<p>展開</p> <p>37分</p>	<p>□題材について意見文を書く。</p>	<p>③題材についての紙芝居を見て、意欲を高める。</p> <p>④立場を決め、理由を考える（構成メモに記入）</p> <p>⑤理由を支えるのにふさわしい会話表現を考える。（構成メモに記入）</p> <p>⑥構成メモを基に、意見文を書く。</p>	<p>たら、ますます落ち込んでしまうからだ。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 敬語について関心を持ち、ワークシートの構成メモ欄に自分の考えを書こうとしている。</p> <p>〔方法〕 観察、ワークシート</p> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕 日本の終身雇用制度は崩れつつあり自身にも「年上の後輩」ができる可能性があることを伝える。</p> <p>【賛成・反対の立場を決めることができない、理由を考えることができない】 →敬語についてマッピングをさせ、敬語の良い点・悪い点を明確にさせる。 →「もし、あなたがAさんだったら」、「もし、周りの従業員が、会話を聞いていたら」、「仕事を教える時、あなたは敬語を使ったほうが仕事を教えやすいか」などの視点を与える。</p> <p>【会話表現を想像することができない、想像できるが抽象的である】 →ファミリーレストランでの仕事には、どのようなものがあるか想像させる。飲食店でのアルバイト経験がある生徒に、聞きに行かせる。</p> <p>・上記の手立ては、構成メモのプリント内の「困ったときは」に載せておく。そこを見ても先に進めない生徒を優先的に指導するためである。</p> <p>目標アに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 具体的な会話表現（飲食店での勤務だと分かるような具体性）を用いながら、意見文を書くことができる。</p> <p>〔方法〕 生徒の書いた作文</p> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕 仲間の優れた作品を使って、比較する</p>
<p>まとめ</p> <p>1分</p>	<p>□作文を提出する。</p>	<p>⑤作文を提出する。</p>	<p>・作文は、評価し、コメントを添えて返却することを伝える。</p> <p>・次時に返却できるよう、評価・コメントは早く行う。</p>

参考文献

- ① 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 国語編』 2008年 東洋館
- ② 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 2010年 教育出版
- ③ 森岡健二 『文章校正法 文章の診断と治療』 1963年 至文堂
- ④ 大西道雄 『意見文指導の研究』 1998年 溪水社

- ⑤ 大西道雄 『短作文の評価と処理』 1994年 明示図書
- ⑥ 国語教育編集所編 『「作文技術」指導大事典』 1996年 明治図書
- ⑦ 藤原宏 八田洋彌編 『小学校作文指導事典』 1993年 教育出版
- ⑧ 飛田多喜雄 大熊五郎 『文章表現の理論と方法』 1975年 明治図書
- ⑨ 藤原和博 『藤原流 200字意見文トレーニング』 2010年 光村図書
- ⑩ 田近洵一 井上尚美編 『国語教育指導用語辞典〔第四版〕』 2009年 教育出版
- ⑪ 大槻和夫編 『国語科重要用語 300の基礎知識』 2001年 明治図書
- ⑫ 『教育科学 国語教育 185号』特集 作文力を伸ばす「評語」の書き方 1973年 明治図書
- ⑬ 教育情報センター編『教育科学 国語教育 215号』(臨時増刊)「作文指導の個別化」共同研究報告集 1976年 明治図書
- ⑭ 山本麻子 『ことばを鍛えるイギリスの学校 ―国語教育で何ができるか』 2012年 岩波書店
- ⑮ 『書く力が身につくイギリスの教育』 2010年 岩波書店